

第二十四潜水艦神朶丸觸衝一件

0701

供覽

軍務局

二三六 上

大正十三年八月六日

吳鎮守府司令長官 下勇

海軍大臣 財部 彪 毅

船舶觸衝之図文件

第二十四号潜水艇对帆船神乐丸觸衝之図

別紙字通第十五号潜水艇司令官 林 去

有之候

右報 去 不

第一卷 (別紙字通付)

(終)

13.8.16 接受



0702



十五階隊核番号八九三號

大正十三年七月二十日 於神奈川

第十五階隊核司令 白根 眞介

長官 長官 長官 長官 長官

艦艇觸撃之関スル件

大正十三年七月二十日午後一時三十分至四時十分
 甲種潜水艦一艘見交艦首ノ爲ノ島嶼航路方面ニ行動
 1 海霧ヲ有ニ関海門岬岬ヲ東ヨリ西ニ通過セルトシ
 燈台ノ南東〇八哩ノ地莫ク針路直方ニ位五度速力
 九節開路離六百三編隊航行中五番物船核三十四
 階少艇ハ左舷ヨリ来リ中ヨリ右ニ横過セルトスル
 帆帆ニ觸撃シ双方共損害ヲ見ルルニ至リ其水型別
 紙葉子由潜水艇長心得ノ報告書ニ基キ

0703

石報告ス

(別紙一部添)

終

0704

大正十五年七月二十日

黄二十日博水博長心得申越之司

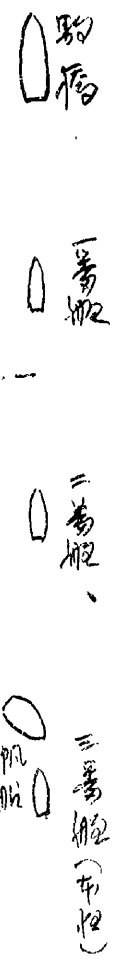
黄十五日博水博司令白根自介受

觸津三園之報先

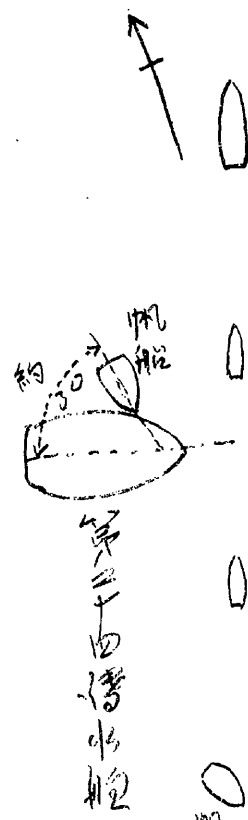
大正十五年七月二十日午後十時二十五分本船の五番
 船より偏陽鐵踏真方位五度速力九節開巨島
 六百三ノ新崎燈台の南果〇八度地五ノ航路中突
 如友船前方約五度位内約百五十米突ニ青燈一個
 ヲ発見之タルヲ以テ正ニテ燈物船ノ本船ニ接近ス
 急ニ燈火ヲ山ニタルト直覺ニテ掃筒一聲ヲ鳴
 奏スルト若シ面舵五度ヲ令ニテ眼高ヲ低下ニテ暗
 中ニ透視スルニ本船前路ヲ友船ヲ在船ニ横過セ
 ルトトゾク大ナル明影アリテ発見セリ而シテ其人状

况第一圖ニ示スル如ク切迫セルヲ以テ直ニ西航一杯様
 減速行止 同時ニ汽笛一聲ヲ吹テ告知スルヲ能ハス
 回遊ニ努メ大ナルセ及ハク遠ニ誤ル船ノ第一圖ニ示スル
 如キ状態ヲ以テ事左舷側第五十五番目ヨリ前
 方ヨリ物長ノ約五分上ニ一四ノ交角約五十五度ヲ以テ
 離速スルニ至レリ

第一圖



第二圖



當夜、晴天、晴夜ニシテ海上稍ニ襟々アリ、視界
 約一〇米、風向東北、風力一、ニ、浪流西流、約一

0706

二 觸礁後ノ事
觸礁後ノ事

援救停止後直下ニ主電報機ヲ撥正兩船後進望
連續シテ停止後投錨救助船ヲ下ニテ其後何故ニ兵
員二名ヲ送ハ先ヨリ該帆船ノ状態ヲ探セシメテ前部
船室ニ僅クノ漏水ハ何所ニテ知リタルヲ以テカ
リ事柄ハ更ニ錨後ヨリ該帆船ニ近ク乗来シ
東船トノ巨區向遠カリシヲ以テ兵員四名ニ移動
一基漏洩ハ何所ニテ見出シテ用貝ヲ携行
帆船ニ水ニテ應急作業ヲ援助セシメテ移動
際便用ニ必要ナリキ且ソ艦長自ラ部噴燈ヲ見張
所ニ至リ電燈ヲ以テ船主ニ状態ヲ通シ
送ラシムル手配ヲ以テ翌二十九日午前四時半最早
該帆船ニ危険ヲ示シ破メタル上援助作業ヲ行

0707

先着セル僚艦一泊ヲ追ヒ津田ニ回航セリ

五 損害程度

(4) 第ニ十回潜水艦

(一) 左舷外殼水面僅ルニ凹ミテ生タル凹所(最
大凹部ニ分上時弱)

(二) 六号系射管間之屈曲 一、
(前部ニ見ル)

(三) ハンドレールスタンションノ折損セルモノ 二、

(12) 附船

(一) フバウスプロット 折損

(二) 漏洩ヲ生シタル箇所(前部船室)

雙方トモ死傷者ナシ

四 帆艦名 其ノ他

艦名 神武丸

0708

持主

門司市大久保 佐村 静之

船主

倉田 菊次郎

積荷

石 八 罌

出航地

石 炭

行先地

田ノ浦 (那端燈台ノ西約一哩)

尚該船夫ノ言ニ依リハ

高松

赤燈(左舷燈ノ意)ハ遠ク遠方ヨリ連續燃メタル也

充分前方ヲ航過シ得ルト信ス其ノ後直進セリ

又危後迫ルニ際後留リ陣中タルニ青燈ノ見エタル

心地ヤルヲ以テ(實際其ノ苦ナシ)取舵ニ操舵セリト

更ニ又船燈ハ帆船ニ始メヨリ出シ居タリト云フ也

本船員張員数名中一人ト多始メヨリ之レヲ業見

之夕ニモナリ又先行せん船橋船長並に前續二
 摺小船長元先之該船船長ニヤモ一、左船側ヲ近ク
 航過せんニ認メタルニ燈火ノ全ク認メサリトノ事
 ナレハ該船船長自取リ燈火ヲ出シ居タルニ非ス
 之ヲ對照力迫ルニ際急ニ之ヲ出シタルニト思フ也
 更ニ當時車炮見張設置 左ノ如シ
 船長 船橋上腰掛台ノ上
 克巳の授 前甲板
 船長 船橋
 乗組員長 前甲板最前部ノケラスミ側
 見張員長 (下等兵) 三名 船橋

(船)

0710